

第31回

「全国きき酒選手権大会」レポート

個人の部は西村百代さん、団体は群馬県(石関・依田ペア)に栄冠
3年ぶりの女性チャンピオン。36都道府県の72人が激戦



辰馬会長から祝福を受ける西村さん(左)



辰馬会長とおちょこくんに囲まれて、群馬県チームの石関さん(右3人目)と依田さん。

第31回「全国きき酒選手権大会」が10月21日正午から、東京港区のインターナショナル東京ベイで開催され、
<個人の部>では、大阪府代表の西村百代さんが、
<団体の部>では石関克則さんと依田悟史さんの群馬県チームが、並みいる強豪を制して「きき酒日本一」の栄冠に輝きました。激戦の1日をレポート。



年に一度の統一王座決定戦。震災被害・東北各県からも元気な姿

● きき酒の面白さを広めて 30 年

各県の予選を勝ち抜いた名うてのきき酒自慢が一堂に会して、その年の統一チャンピオンの座を競う「全国きき酒選手権大会」。1981 年の第 1 回以来、研ぎ澄ました感覚をフルに使って日本酒の味と香りをきき分ける「きき酒競技」の面白さを世に広めてきた、業界屈指のロングラン・イベントです。

● 今年も決着はフレオフで

第 31 回目の今大会には、36 都道府県の代表 72 人が参戦。最後は女性 4 人を含む 13 名によるフレオフでようやく決着という例年通りの激戦を繰り広げましたが、選手団の中に、東日本大震災で大きな被害を受けた東北ブロック各県代表の元気な姿が見られたことも、今回のうれしいニュースのひとつ。

● タレントのぜんじろうさんも参戦

また、特別参加枠として、日本の伝統文化の発信を目的に活動している女子大生らのグループ「やまとなでしこプロジェクト」のメンバー 5 人とマスコミ関係者のグループが競技に加わったほか、お笑いタレントのぜんじろうさんも特別招待選手として参加。皆さん、きき酒初体験とは思えぬ真剣な闘いぶりで、大会を盛り上げました。



福島、宮城の代表も参加



特別参加の「なでしこプロジェクト」チーム(上)



ゲスト参加のぜんじろうさんも真剣な表情(右)

上位入賞の方々(敬称略)

【個人の部】

優 勝 西村 百代(大阪府)
準優勝 佐藤 晃一(千葉県)
第三位 西澤 真美(徳島県)

【団体の部】

優 勝 群馬県(石関 克則／依田 悟史)
準優勝 徳島県(西澤 真美／宮崎記司雄)
第三位 埼玉県(小林 麻理／佐々木 淳)



個人の部準優勝の佐藤晃一さん



団体の部準優勝の徳島県チーム(西澤さん(右)は個人の部3位)



団体の部第3位の埼玉県チーム

熱闘 2 時間。競技が終われば懇親のひととき

● 20歳から81歳まで

競技に先立って行われた開会式では、まず中央会の佐浦需要開発委員長が、「今大会は20歳から81歳まで、例年以上に参加者の年齢も幅広い。レベルの高い闘いになると思うが、リラックスして鍛錬の成果を発揮して下さい」と激励の挨拶。

続いて、昨年団体の部で優勝した長野県チームが優勝杯(角樽)を返還。同じく昨年準優勝の佐賀県チームが「磨き上げてきた官能能力を発揮し精一杯きき酒することを誓います」と元気いっぱいに選手宣誓した後、いよいよ競技開始へ。

● 緊迫感みなぎる真剣勝負

まず酒造の基礎知識などに関する筆記試験(20分)を行った後、4組に分かれて、7種類の日本酒(純米吟醸、大吟醸、純米、生酒、本醸造、低アルコール酒、普通酒)のマッチングに挑戦。かすかなグラスの響きと取材陣のシャッター音しか聞こえない静けさの中、各組約15分の持ち時間を使って、緊迫感みなぎる真剣勝負を繰り広げました。

● 「日本酒で乾杯！」

熱闘2時間。競技の後の懇親パーティでは、辰馬会長の発声で「日本酒で乾杯！」の杯を上げた後、ゲスト参加のぜんじろうさんも交えて歓談のひと時。途中の表彰式では、各部門の入賞者に辰馬会長から賞状や記念品(日本酒と全農提供のお米券など)が手渡されるたびに、盛んな拍手と歓声が一(パーティの模様は次頁)。

● 優勝のコメントいろいろ

個人の部優勝の西村さんは、「20歳のときから日本酒一筋」という旅行会社勤務の難波っ子。第28回大会以来3年ぶりの女性チャンピオンです。「きき酒体験は今回が初めて」とは驚きですが、「旅先でも必ず土地の蔵元を訪ねます。自分に特別なきき酒能力があるとは思わないけど、好きであることが何より大切ですね」と、謙虚なコメント。

団体の部を制した群馬県チームの石関さんは料飲店経営者で、「高崎駅前に日本酒バーを開いたばかり。群馬にお越しの際はぜひ」と余裕の弁。また食品会社で分析の仕事をしているという相方の依田さんは「きき酒はまだ始めたばかり。分析で鍛えた舌が役に立ったかも」と、笑顔を見せっていました。



長野県チームが優勝杯返還(上は佐浦需要開発委員長)



選手宣誓は佐賀県チーム



筆記試験は栄光への第一歩



「ここからはノーサイド」と辰馬会長



個人の部10位から4位までの方々

ノーサイドの風景 ● 懇親パーティの会場から



講評は(独)酒類総合研究所の後藤邦康氏



日本酒マスコット・おちょこくんを囲んで

中締めの挨拶は澤田需要開発副委員長